

## 【奨励賞】

### 「いじめ」

米原市立伊吹山中学校 1年 鹿取 花華

みなさんは「いじめ」をされたこと、もしくはしてしまったことはありますか？「いじめ」はふとした瞬間に起こってしまいます。

まず、「いじめ」とは、陰口を言われたり、嫌な気持ちになることを言われたり、書かれたりする、ということだと私は思っています。いじめている人だけでなく、見て見ぬふりをしている人もそれは同罪です。「みんながやっていたから」、「自分は本当はしたくなかった」などという言い訳では許されることではありません。

では、なぜこのような「いじめ」が起こってしまうのか、ということを考えてみました。自分が発した言葉や行動、態度、家の事情やプライベートでのことで「いじめ」が起こってしまうのでは、というのが私の考えです。

人間は、「大丈夫？」と聞かれたら、「大丈夫。」と答えてしまう生き物なのです。心の中では、「私、いじめられているの。とてもつらい。助けて!!」と思っても、口に出すのはとても勇気のいることです。だから、「全て『大丈夫。』という一言で済ませてしまおう。」とみんなが考えているのではないかと思います。

私もこんな体験がありました。急にA子ちゃんがB子ちゃんの陰口を言ってきました。突然のことで、びっくりしたのを覚えています。小学校五年生の頃でした。日がたつにつれて、陰口もエスカレートしていきました。そのことを母に知らせると、

「B子ちゃんの味方をしなさい。」

という言葉がくれました。さらに、

「先生にも、そのことを言ってみたらどう。」

とアドバイスをくれました。先生に今までのことを話すと、すぐに対応してくれました。実を言うと、母に知らせるまでは、私もA子ちゃんの味方側だったのですが、母に知らせた後は、「B子ちゃんを助けよう。」という気持ちに変わっていきました。

逆にこんなこともありました。急にA子ちゃんとB子ちゃんが私の陰口を言い始めました。詳しく言うと、A子ちゃんに、B子ちゃんがくっついていて、という感じでした。それだけでも悲しかったのですが、A子ちゃんは私にだけ塩対応なのです。他の子たちと話しているときは笑顔なのに、私が話しかけると、あからさまに不機嫌になるのです。何でなのか聞いても、

「別に。」

という一言だけ。もうたえられなくて、担任の先生に相談しました。先生は、

「分かった。A子ちゃんに話してみるね。」と言ってくれて自分に味方ができた気分でした。次の日学校に行くと、A子ちゃんが謝ってきました。「ずっと塩対応だったのは、B子ちゃんとずっと話しているから・・・。」と。私もA子ちゃんのことをいつも明るくて、誰とでも仲良くできて、いいな。うらやましいなと思うことがよくあります。A子ちゃんも、「うらやましい。」という気持ちから、私への「いじめ」が始まってしまったのです。

このような、「うらやましい」、「イライラする」、「一人だけずるい」などの感情は、自然と出てきてしまい、おさえるのはとても難しいことです。そこから、「いじめ」へと発展していってしまうのだと思います。

どんなにつらいことがあっても、支えてくれる人は必ずいます。絶対に。私の場合は母と、担任の先生でした。身近にいる人に相談することが難しければ、その出来事と全く関係ない人に話を聞いてもらう、というのも一つの策です。私も、話を聞いてもらった心がとてもスッキリしました。

「いじめ」にあっても、自分を支えてくれる格言があれば、どんなことでも乗り越えられる気がします。私の中の一番の格言は、高屋奈月先生作の『フルーツバスケット』より、「大切なのは弱さ故の向上心」です。このフレーズが、心に響きました。私は、弱いところや欠点がたくさんあるけれど、常日頃から「上を向いていこう。」と勇気と自信をくれた言葉です。

「いじめ」を受けるということは、メンタルも体も激しく傷つきます。そんな中でも、支えてくれる人は必ずいます。相談すれば、きっと答えが返ってくる。自分の中の格言と支えてくれる仲間を大切に、自分が何をすべきなのかを考えて生活していきたいです。